

令和8年度 第5回一ノ宮小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和8年1月20日（火）19:00～20:00

2 場 所 第2職員室（会議室）

3 委員長あいさつ

- ・寒い中ありがとうございます。学校評価に対して、みなさんの意見をたくさんいただいて、よりよいものにするための協議を行いましょう。

4 令和7年度学校評価について

（1）学校評価の説明

事項書の流れを説明

（2）学校関係者評価について

① 「成果と課題」について学校長から説明。（別紙）

- ・教科推進については、目標に大きく届かなかった。目標値が高すぎた。昨年度と比較しながら検討した。端末の使い方は校内で統一して根気よく指導を重ねている。
- ・生活指導については、ヘルメットをかぶっていない姿を街中で見かけるため、保護者への啓発も必要である。生活持ち物チェックを行っており、持ち物がそろう子が増えてきた。PCで配信される宿題を保護者が確認をしにくい現状がある。
- ・人権については、ぬくぬくタイムで、自分の思っていることを伝えたりお互いのことを知ったりする機会となっている。担任はこどもをつなげることを大切に取り組んでいる。
- ・長期欠席対策については、理由がはっきりできないときは不登校ととらえている。あと2か月増加しないようにしていきたい。
- ・特別支援教育については、特別な支援を必要とするこどもが増加している。またこだわりの強い子への支援法を検討していく必要がある。
- ・地域連携については、通信や連絡をアプリで行うようになり、保護者が見る機会が増えた。よみかせボランティアの活動が2学年にわたるようになった。ボランティアの登録人数が少しずつ増えている。
- ・学校における働き方改革については、目標は達成していないが、定時退校日など意識するようになってきた。

② 「学校関係者評価」について

○特別支援教育の属人的とはどういうことか。この学校は、話を聞いて相談にのってくれる学校である。いじめは徹底的に指導してほしい。加害者の人権を考えすぎることもあるように感じている。

→いじめは絶対に許さないという姿勢で指導していく。

○親子で参加するイベントがあると、親同士がコミュニケーションをとって仲

良くなれる。親同士がつながることを考えてはどうか。

○一番大切なことは不登校。社会に出ることができるようやり方を取り入れるなど、見方を変えるといい。親がいなくなったときのことを考えて力や耐性をつけていくべきだ。

○不登校が増えている要因分析をして明確にし、対応を考えてはどうか。条例ができ、地域がすることや保護者がすることが打ち出されたが、作りっぱなしになっている。

○自主的な不登校と、逆に行きたくても行けない不登校の子がいる。みんなと過ごすより、一人が好きな子もいる。多様な個性を認めていけるとよい。9人中行きたくても行けない子はどれぐらいか。

→ほとんど。

○これが好き、学びたいという気持ちを伸ばしていけるとよい。

→授業の中でもそのような取り組みをしている。調べ学習では自分の関心のあることを調べるなど、別々の課題に取り組むこともある。

○ほっとルームができて、出てこられる子は増えたか。ほっとルームではどのように過ごしているのか。

→出てこられるようになった子もいる。教員がついて課題をしたり、教室へ一緒について行ったりすることもある。

○「好きな教科が2つ以上ある」というアンケートの設問に疑問を感じる。2つないといけないのか。「ねばりづよく取り組んでいる」も早く解けた子はねばり強くではなくなってしまふ。授業参観では多くの子が挙手をしており、意欲的だった。アンケート項目を見直してはどうか。

○図書室に自分から行く子が少なかったり、習慣化されていないのであれば朝読タイムなど時間を決めて取り組んではどうか。

→全校で昼読タイムに取り組んでいる。

○端末など便利なものが増えてきた。使い方をきちんと伝えていかななくてはいけない。社会が変化しているので新しい対応を取り入れていかななくてはならないと感じる。

○共働きの家が多く、学校からの連絡を見る時間がないという現状もある。

5 今後の予定（事項書に記載）

6 教育委員会より

意見が出しきれなかった学校評価の提出を確認するとよい。学校評価は昨年度よりずいぶん見やすくなった。年々改良されていてよい。これは学校長が評価項目に基づいて教育活動を行ってきたことを示している。この取組はよかったとか、これは達成するにはずれているのではないかなど書いてもらおうと来年につながる。

PDCA サイクルで学校も取り組んでいくためにも忌憚のないご意見を頂戴したい。